

横浜市立太尾小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度			共通取組 重点取組	平成26年度			共通取組 重点取組	平成27年度				
	具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括		
1 確かな学力	・興味と関心を広げ、積極的に学ぶ姿勢を育てます。びノートの整理の仕方や話し方等の学習の基礎基本能力の指導等を教職員が共通理解し、子どもを6年間ではなくむしろスタンダードに基づいた指導を推進します。	・基礎基本の着実な定着のため、繰り返し指導、ノート指導、中学年TT指導の研究実践により、定着を図ります。・聴く、話す、学び合う授業づくりにより、共に学ぶ豊かな学力を育てます。・「太尾の時間」ベースカリキュラムの確立により、地域の材を活かした体験的、探究的学習を展開します。	A B C D	1 確かな学力	・繰り返し指導による学力の向上が見られるので、授業での繰り返し指導や家庭学習での繰り返し学習についてよりよい指導の方向性を考えながら授業を行っています。ノートの規格については、本校のスタンダードに記載されているので、再確認し、準拠していく。・学力向上の視点での中学年Tは、非常に効果的に機能した。また、児童支援の視点でのTについては、中学年に限らず臨機応変に発動され、たいへん効果的だった。・カリキュラムマネジメントの見直しを行い、PDCAサイクルで研究実践を進めていきたい。「聴く力」、「話す力」を意識して指導することで定着を図っていく。・毎年の学年や学級での活動の内容を次年度以降の参考にしていきたい。・昨年度の活動例とともに地域の材を活かしたり、他教員との関連を図った活動のための「ひと・こと」についてのデータベースをしていきたい。	・繰り返し指導による学力の向上が見られるので、授業での繰り返し指導や家庭学習での繰り返し学習についてよりよい指導の方向性を考えながら授業を行っています。ノートの規格については、本校のスタンダードに記載されているので、再確認し、準拠していく。・学力向上の視点での中学年Tは、非常に効果的に機能した。また、児童支援の視点でのTについては、中学年に限らず臨機応変に発動され、たいへん効果的だった。・カリキュラムマネジメントの見直しを行い、PDCAサイクルで研究実践を進めていきたい。「聴く力」、「話す力」を意識して指導することで定着を図っていく。・毎年の学年や学級での活動の内容を次年度以降の参考にしていきたい。・昨年度の活動例とともに地域の材を活かしたり、他教員との関連を図った活動のための「ひと・こと」についてのデータベースをしていきたい。	A B C D	1 確かな学力	・確かな学力の向上のため、全職員で取り組む指導の重点を「学力向上アクションプラン」として取り組みます。・聴く、話す、学び合う授業づくりにより、共に学ぶ豊かな学力を育てます。・地域の材の活用と「太尾の時間」ベースカリキュラムの確立により、地域の材を活かした体験的、探究的学習を展開します。	・「学力向上アクションプラン」を全職員で共通理解した。・共同研究において、その実現に向けて研究を進めてきた。・相手意識をもった「話し方」、「聴き方」を身に付けさせるための具体的な手立てを明らかにし、検証した。・「社会科・生活科」の魅力ある材を使った単元開発が進みつつある。・日常におけるカリキュラムマネジメントが進んでおり、授業改善が図られている。・子どもたちの「聴き方」、「話し方」に変容が見られ、授業において自分の考えを交流する子どもたちの姿が見られるようになってきた。・子どもたち同士との考えが通じ合う交流につなげていきたい。・地域材の開発は進みつつある。・地域の材を使うことにより、体験的、探究的な学習につながっている。・「太尾の時間」のベースカリキュラムの確立に向け、学級力をもとに学年として必要なことは何かを検証する。	A B C D		
	・相手の立場や気持ちを理解し、思いやりのある行動を実践できる子の育成を目指す。・地域やブロックの学校との活動に積極的に取り組み、地域・異年齢との共生の心を育みます。・人とのふれあいを大切にし、「あいさつ運動」を推進します。	・生活科、総合「横浜の時間」を核に、地域社会や様々な人とコミュニケーションを取り入れた活動やモットーの飼育活動を展開した。・生活委員会による「あいさつ運動」や「たてわりペア活動」を行い児童間の交流や児童と地域の方々、教職員との情緒的交流を図った。	A B C D		2 豊かな心	・自己肯定感と思いやりの心を原点として、正しくないことは正し、正しい行動に導く日常的な児童指導を徹底します。・道徳授業を充実し、豊かな心、正しい心の育成を図ります。・地域の自然や社会にふれたり、異学年の交流を充実したりすることを通して、豊かな心を醸成します。	・月目標や早急に取り組むべき課題を教職員間で共有し、クラス単位だけでなく、学校全体での取組を計画し、実施していく。「廊下歩行」の際の取組を基本に、具体的な対策を練り、教職員一丸となって声かけや指導を徹底する。・特別活動の目的を見える形で表示ややり直しを取り入れて実践する。・ハッピータイムなどのペア活動の取組の見直しを手掛かりに、特別活動を工夫し、自己肯定感につなげるようにしていく活動を作っていく必要がある。計画的に、道徳の授業を積み重ねることで、児童の意識は変わることがある。授業に必要な教材・教具が十分ではないため、ねらいに沿った指導ができないことがある。今後、校内研修などを通して、さらに道徳の指導を推進し、再来年度の区授業研究会に向けて充実させていく必要がある。・異学年の交流を充実させるために、児童の実態に即し、各担任がペア学年の担任と相談し、ペア人数の決定を行っている。円滑に交流をすることができた。来年度も豊かな心を醸成できるように指導していく。・縦割り活動や地域の方々との交流や、お世話になっている地域の方々への感謝の心が育まれてきた。		A B C D	2 豊かな心	・「豊かな心アクションプラン」を確立し、自尊感情と思いやりの心、規範意識を高めていくためのスタンダードを共有した児童指導を行います。・道徳授業を充実し、豊かな心、正しい心の育成を図ります。・地域の自然や社会にふれたり、異学年の交流を充実したりすることを通して、豊かな心を醸成します	・「あいさつ」の仕方や、児童の名前の呼び方など人権を尊重した人との関わりを全職員が範を示しているように意識を共有できた。・特別に支援が必要な児童へのかわりなどについて校内委員会を活用し、全職員でサポートできる体制を維持することができた。・「豊かな心育成部会」を定期的、且つ必要に応じて臨時的に開催し、チーム体制で児童指導にあたることになった。・「豊かな心育成アクションプラン」を全職員で深く共有するところまでには至っていないので、現状の動きがアクションプランのどこに位置づけるか確認しながら、さらに深く共通理解する必要がある。・道徳の年間指導計画だけでなく、指導計画の別冊を全職員で作成することにより、行事や他教員、月別目標などと道徳の指導がどう関連づけるかを再確認することができた。・道徳の授業をしっかりカリキュラムに沿って行っていくための具体策について、研究部会で話し合うことができた。・人権週間の取り組みがより豊かなものとなるよう、現状より早い時期から計・学年のペア活動を特別活動の年間指導計画に位置づけ、また、指導の目的を全職員で共通理解して指導にあたることを続けてきた結果、低学年児童にとっても高学年児童にとっても有意義なものとなった。また、その活動を通して「ありがとう」といわれる経験も多くなり、自尊感情の高まりを感じる部分も多かった。・地域の材を生かせるように授業構想を練ったり、学習を展開したりすることができた。また、40周年行事や地域の方々への児童の関わりを通して、児童が地域への関心を高めていることも実感できた。・来年度の組織でも今年の実績を生かしているようにしていくこと大切である。画を立てて全職員が共通理解の基で学習を展開していく必要がある。	A B C D
	・体育健康プランの実施と改善に取り組みます。・基本的な生活習慣について学習し、健康的な体づくりに取り組みます。・特別クラブや体育行事を通して、体力向上を目指しながら調整力を育み、健康でたくましい体を作ります。	・体力テスト・走ろう会、体育の学習の中で、自分の目標をもって取り組むことができるように工夫し、健康的な体作りを進めることができた。	A B C D		3 健やかな体	・基本的な生活習慣について学習し、健康的な体づくりに取り組みます。・体育授業、体育行事等を通して、健康でたくましい体を作ります。・食育を教科に関連して位置づけ、担任と栄養教員との連携で食育を進めます	・児童保健委員会から呼びかけたり、保護者へ協力を仰いだりして意識の向上を図る。学校保健委員会と取り組むこと一つの方法と考える。保健指導・保健だよりでの啓蒙も継続していく。・体育健康プランに基づき、年間を通して健やかな体を作るための取組が成されていく。特に、体育健康プランでも「走ろう会」では、児童一人ひとりが体力を高めるために、目標を立てて取り組んでいる。「特別陸上クラブ」では、体力向上を目指す児童を中心に、自主的に陸上運動に取り組む、成長を上げている。体育に参加できない児童への対応については、年度初めに体育部から出している「体育学習の約束」に見学児童も学習者の一人として活動すると明記されている。年度初めに、全職員で共通理解を図り、児童一人ひとりが体育学習に主体的に取り組める環境づくりを目指していきたい。・各学年の年間計画にある「食育と関連する学習」を年度初めの学年で検討する。・食事マナーについては、「もくもくどより」でも時々取り上げられているので、各教室で読むようにする。また、「給食だより」を中心に、お便り等で家庭へ呼びかけていく。・栄養教員との連携については、必要資料の提供や授業での話など、連携をとっていきたい。・昨年度の授業や過去の資料なども活用する。		A B C D	3 健やかな体	・「健やかな体アクションプラン」に基づく健康的な体づくり、生活習慣向上に取り組む。・鶏見川を走ろう会、運動会などの体育行事を通して、健康でたくましい体を作ります。・保健指導、食育を教科に関連して位置づけ、担任と栄養教諭、栄養職員との連携で推進します。	・「健やかな体アクションプラン」及び学校保健委員会テーマ「ぐずりねむって作ろう強い体～感染症に負けない体をつくらう～」に基づき、健康的な体づくりや生活習慣の向上に学校全体で取り組めるようになってきた。来年度は、保健委員会、運動委員会、給食委員会及び学校保健委員会を担い、年間を見通した活動を充実させていきたい。・運動会「鶏見川を走ろう会」などの体育行事を通して、健康でたくましい体を作れるようにする。同時に、同学年や異学年、地域の方々との関わり、身近な自然である鶏見川とのふれあいによって、子どもたちの豊かな心やコミュニケーション能力を育てることができた。長期休業中も健やかな体づくりに取り組めるよう「健やかな体カード」を配付し、成果を上げることができた。保健においては、「あわわお洗い週間」として、手洗いの仕方の指導したり石鹸を変えたりすることにより、子どもたちの衛生的な生活習慣の向上につなげることができた。食育においては、6年間で系統的に発達段階に応じた指導ができるよう各学年の指導内容を検討し、低・中・高学年で養護教諭や栄養教諭と連携した授業実践ができた。	A B C D
	4 教育課程・学習指導	・共同研で教材研究をしながら授業展開を工夫することができた。また資料を作成、活用することによって児童が意欲をもって取り組める分りやすい授業の展開に努めた。	A B C D		4 教育課程・学習指導	・子どもたちの課題に対応した特別支援教育を推進します。・「いじめられる子ども、いじめると子ども」児童指導を進めます。	・きめ細やかな支援によって、成果がみられている。しかし、児童支援に関する情報共有をより確かなものにし、全教職員で連携して児童支援にあたるために、校内体制のさらなる充実を図る必要がある。		A B C D	4 児童支援	・子どもたちの課題に対応し、中・長期の視野に立った特別支援教育を推進します。・どの子にも親切な、教育のユニバーサルデザイン化を進めます。	・きめ細やかな支援、チームとしての連携、否定しないで受け入れる支援ができています。・子どもの実態をていねいに見とり、校内支援委員会により共通理解を図ることができた。・ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境の整備、学習の展開を図るよう努めることができた。・今後も職員研修や他校の実践などから、教職員一人一人が学んで実践していくことが大切である。	A B C D
5 児童・生徒指導	・全教職員がスタンダードに則った実践ができるよう、共同研でも取り組み環境整備に努めた。・視覚的に分かりやすい掲示物、DVDなど児童指導・支援に生かせるよう工夫した。	A B C D	5 児童・生徒指導	・子どもたちが、自らの意思で積極的に活動に参加する中で、様々なことを学び成長する場となっている。また、担当の熱心な指導や全職員の協力体制とその活動を支えられている。これらも、所属していない児童にも配慮しながら、学校の特色として、職員で協力しながら活動を支えていきたい。	・学校説明会や学校便り・学年便りなどを活用して、指導方針や指導内容を繰り返し伝えていく。・見守り隊や学校運営協議会など、学校に関わってくださっている方々を、朝会などで紹介したり、統一したネームプレートを作ったりするなど、来年度に向けて両者で相談しながら準備を進めていく。	A B C D	5 道徳・人権教育	・道徳授業を中心として、活動全体による人権教育を推進し、自立した道徳性と人権感覚を育てます。・規則を守り、あいさつができる、実践力のある子を育てます。	・各教科領域や行事と道徳の指導内容との関連を見直し、必要に応じて指導内容を入れ替えて効果的な指導を行えるようにした。・いじめ防止や人権週間など重点的に人権感覚を養う取り組みを実践し、日常的な指導と合わせて取り組むことができた。・「太尾スタンダード」による一貫した児童指導を行い、約束を守ることの大切さ、あいさつを日常的にできることなどを積み重ねていくことができた。・あいさつについては自分から進んでいくようにしていきたい。教職員が率先して範を示すとともに、児童の委員会活動なども活用していきたい。	A B C D			
6 教職員の研究・研修	・学年研究会を始め、諸会議・会合等の実践の場が研究・研修の場であることを意識し、日々研鑽を積みます。	A B C D	6 教職員の研究・研修	・学校、地域、保護者で目標を共有し、ニーズに応える連携づくりを一層進めます。	・今年度行った「地域防災拠点訓練」では、地域、学校、保護者の三者が協力し、防災意識を高めるよききっかけとなった。また、6年生のみが参加する体験型の内容もよく、充実した訓練となった。課題は、共通理解が図れなかったことである。地区によっては、避難訓練を行わずに登校したり、どうしたらよいかかわからない保護者も多数いたりしたようである。さらに、地域からの問い合わせに答えられないケースもあった。地区ごとによる避難訓練は、地域が主導となって行うものなので、三者の共通理解を徹底的に図り、さらに学校が各地区でどのような訓練を行うのか把握しておく必要もある。今年度の反省を生かし、来年度は、よりよい訓練をし、安全教育を推進していきたい。	A B C D	6 道徳・人権教育	・道徳授業を中心として、活動全体による人権教育を推進し、自立した道徳性と人権感覚を育てます。・規則を守り、あいさつができる、実践力のある子を育てます。	・各教科領域や行事と道徳の指導内容との関連を見直し、必要に応じて指導内容を入れ替えて効果的な指導を行えるようにした。・いじめ防止や人権週間など重点的に人権感覚を養う取り組みを実践し、日常的な指導と合わせて取り組むことができた。・「太尾スタンダード」による一貫した児童指導を行い、約束を守ることの大切さ、あいさつを日常的にできることなどを積み重ねていくことができた。・あいさつについては自分から進んでいくようにしていきたい。教職員が率先して範を示すとともに、児童の委員会活動なども活用していきたい。	A B C D			
7 教育環境整備	・指導を円滑かつ効果的に行うことができるよう、教材の開発や環境整備に重点的に取り組みます。	A B C D	7 教育環境整備	・地域、学校、保護者の連携による、防災、防犯、交通安全等の安全教育を推進し、自助力と共助力を育てます。	・今年度行った「地域防災拠点訓練」では、地域、学校、保護者の三者が協力し、防災意識を高めるよききっかけとなった。また、6年生のみが参加する体験型の内容もよく、充実した訓練となった。課題は、共通理解が図れなかったことである。地区によっては、避難訓練を行わずに登校したり、どうしたらよいかかわからない保護者も多数いたりしたようである。さらに、地域からの問い合わせに答えられないケースもあった。地区ごとによる避難訓練は、地域が主導となって行うものなので、三者の共通理解を徹底的に図り、さらに学校が各地区でどのような訓練を行うのか把握しておく必要もある。今年度の反省を生かし、来年度は、よりよい訓練をし、安全教育を推進していきたい。	A B C D	7 地域連携と防災	・「学校を拠点としたまちづくり」の理念のもとに、地域、保護者との連携による学校運営への参画、ふるさと祭りと地域防災訓練、ボランティアなどの連携等を、持続可能でありよいものへと推進していきたい。	・「学校を拠点としたまちづくり」の理念のもとに、地域、保護者との連携による学校運営への参画、ふるさと祭りと地域防災訓練、ボランティアなどの連携等を、持続可能でありよいものへと推進していきたい。	A B C D			
8 人材育成組織運営	・学年を柱とし、メンターチームをはじめ学年内での授業研究を充実させます。・教務部を中心とした指導者研修や企画委員会を介した企画研修に取り組み、学校の運営についての研究研修の充実を図ります。・校長・副校長の学年研究会への参加を通してより広い視野での教育推進について研じます。	A B C D	8 人材育成組織運営	・若手職員が自らメンターチームを、主幹教諭の指導のもと、先輩教師や外部講師の指導も計画的に取り入れて、充実した人材育成の場とします。主幹教諭等の役割分担を明確にし、職員が組織的に課題解決を育成する体制を推進します。・共同授業研究の推進により、「学び合う授業づくり」「豊かな学力」の指導力向上を図ります。	・メンターチームのメンバー自身で研修したい内容の検討や計画の立案を行い、実施してきた。授業実践と学級経営の両面を先輩教師や外部講師から学び、教師力の向上を図ることができた。今後も計画の振り返りや見直しをしながら、研修を充実させていくようにする。主幹教諭等の役割分担が明確になることで、職員が組織的に課題解決ができるようになる。・職員の見解をもとに校務の精選を行い、全職員の負担を軽減することで、ゆとりをもって課題を解決できる組織を作る必要がある。・学び合いを視点とし、研究推進にあたっては、少しずつ子どもたちに成長が見られたことから、教師も指導力向上のために何をやるかを考え、実践してきたことがうかがえる。「学び合う授業づくり」について具体的などのような指導をするかが見えてきた。	A B C D	8 人材育成組織運営	・若手職員が自らメンターチームを、主幹教諭の指導のもと、先輩教師や外部講師の指導も計画的に取り入れて、充実した人材育成の場とします。主幹教諭等の役割分担を明確にし、職員が組織的に課題解決を育成する体制を推進します。・中期学校経営方針の実現のために、職員が参画してPDCAサイクルで検討改善していく組織運営を推進します。	・メンターチームで自主的に授業研究会を計画・実施し、授業力の向上に努めることができた。教科主任を中心に指導にあたり、事前・事後の研究も充実していた。いろいろな教科・領域を取り上げ、日々の実践に生かすことができた。・学校運営にかかわる取組内容を「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「ふるさと太尾」の4つに整理し、各部署の推進役を主幹教諭が務めることで、効率よく課題について検討できるようになった。その結果、慎重かつ迅速に課題解決でき、学校運営力の強化につながった。・前期・後期2回の学校経営計画の見直し及び、検討組織の改善により、中期学校経営方針の実現に向け、機能的な組織運営を行うことができた。	A B C D			
9 評価・改善	・どの取組も、学校関係者や保護者による評価、教職員による自己評価ともに「概ね達成している」という結果を得ることができた。学校関係者評価としていただいた3つの内容を来年度の具体的な取組に取り入れながら、よりきめ細かい指導・支援によって、児童のよりよい姿がみられるように、全教職員で効果的な取組を実践していきたい。	A B C D	9 評価・改善	・どの取組も、学校関係者や保護者による評価、教職員による自己評価ともに「概ね達成している」という結果を得ることができた。具体的な取組をさらにきめ細かい指導・支援となるよう努めていきたい。	・どの取組も、学校関係者や保護者による評価、教職員による自己評価ともに「概ね達成している」という結果を得ることができた。具体的な取組をさらにきめ細かい指導・支援となるよう努めていきたい。	A B C D	9 評価・改善	・どの取組も、学校関係者や保護者による評価、教職員による自己評価において「十分達成」「概ね達成」という結果を得ることができた。目標の具現化に向け、チーム力を高めて組織的に取り組んできた成果であり、今後も継続していきたい。	・どの取組も、学校関係者や保護者による評価、教職員による自己評価において「十分達成」「概ね達成」という結果を得ることができた。目標の具現化に向け、チーム力を高めて組織的に取り組んできた成果であり、今後も継続していきたい。	A B C D			
10 学校文化・活動	・概ね達成することができたと捉えている。年度始めに、設定した具体的な取組を全教職員で共通理解して組織的に計画的に動くことができたことが、目標達成への原動力となったと考えている。	A B C D	10 学校文化・活動	・概ね達成することができたと捉えている。残された課題については、PDCAサイクルで組織的に改善していきたい。	・概ね達成することができたと捉えている。残された課題については、PDCAサイクルで組織的に改善していきたい。	A B C D	10 学校文化・活動	・校長の強いリーダーシップのもと、中期学校経営方針の実現に向けて職員一丸となって取り組み、大きな成果を上げることができた。PDCAサイクルを各分掌で実行し、継続的、発展的に取り組むことができた。	・校長の強いリーダーシップのもと、中期学校経営方針の実現に向けて職員一丸となって取り組み、大きな成果を上げることができた。PDCAサイクルを各分掌で実行し、継続的、発展的に取り組むことができた。	A B C D			

※当該年度の達成状況： A … 十分達成 B … 概ね達成 C … 努力必要 D … 改善必要